平成24年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年1月30日

上場会社名　株式会社ダスキン　　上場取引所　東 大
コード番号　4665　URL　http://www.duskin.co.jp/corp/index.html
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 山村　輝治
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役　(氏名) 鶴見　明久　TEL 06-6821-5071

四半期報告書提出予定日　平成24年2月10日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の連結業績(平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)　(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	130,634	△3.1	7,830	△8.3	9,274	△5.9	3,069	△34.2
23年3月期第3四半期	134,821	△2.3	8,539	△19.8	9,859	△16.7	4,664	△14.8

(注)包括利益　24年3月期第3四半期　2,955百万円　(△29.6%)　23年3月期第3四半期　4,199百万円　(―%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第3四半期	47.56	―
23年3月期第3四半期	70.43	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年3月期第3四半期	191,174	147,238	76.6
23年3月期	198,876	148,565	74.3

(参考) 自己資本　24年3月期第3四半期　146,442百万円　23年3月期　147,740百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期	―	0.00	―	40.00	40.00
24年3月期	―	0.00	―		
24年3月期(予想)				40.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成24年3月期の連結業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	172,200	△2.9	8,900	△18.6	10,800	△14.4	4,200	△20.0	65.33

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　無

4. その他

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料P. 4「2. サマリー情報(その他)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年3月期3Q	67,394,823 株	23年3月期	67,394,823 株
② 期末自己株式数	24年3月期3Q	3,109,254 株	23年3月期	2,092,494 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年3月期3Q	64,550,513 株	23年3月期3Q	66,236,635 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きを実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 3
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 3
２．サマリー情報（その他）に関する事項 …… 4
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 4
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 4
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 4
３．四半期連結財務諸表 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 7
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 7
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 8
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 9
（４）セグメント情報等 …… 9
（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第３四半期連結累計期間（平成23年４月１日～平成23年12月31日、以下「当第３四半期」）の我が国経済は、東日本大震災で寸断されたサプライチェーンや生産設備の復旧に伴い、景気は持ち直し傾向にありました。しかしながら、原子力災害以降の電力供給不足、海外景気の減速懸念や円高の長期化、更にはタイの洪水の影響等、憂慮すべき問題を抱えたまま、先行きの不透明感は増し、個人消費も依然として低水準で推移しました。

このような環境の中、当社は、お客様の要望に今まで以上に迅速に対応できる体制作りと、お客様にとってより便利な仕組み作りを行いつつ、ご要望に適った新商品の販売に注力し、お客様層の拡大に取り組んでまいりました。

当第３四半期の業績につきましては、連結売上高は1,306億34百万円（前年同期比3.1％減）、連結営業利益は78億30百万円（前年同期比8.3％減）、連結経常利益は92億74百万円（前年同期比5.9％減）、連結四半期純利益は30億69百万円（前年同期比34.2％減）となりました。

なお、平成22年１月29日に公表いたしました平成25年３月期を目標年度とする「中期経営方針」について、見直すこととしました。これは、昨年３月の東日本大震災とそれに伴う原発問題、原油や穀物等原材料価格の高騰及び海外情勢の大きな変化等、計画策定時に想定していない事態の発生やここまでの施策実行状況等を考慮いたしますと、このまま当初の計画通り推進していくこと及び当初の目標を達成することは極めて困難と判断したためであります。現在、平成25年３月期を初年度とする新たな３ヵ年計画の策定作業に着手したところであり、策定でき次第公表する予定であります。

ａ．セグメント毎の状況

（ａ）クリーングループ

一般ご家庭向けの清掃関連用具のレンタル及び清掃美化関連の役務提供サービスを手掛けるホームサービスにおきましては、いつでも気がついたときにフロアモップでホコリを集めて「ダストクリーナー」（置き型式のクリーナー）で吸い取るという“新おそうじスタイル”の普及に注力しました。この活動に加えて、スタイリッシュなデザインとコンパクト且つスリムで回転するヘッド等機能性を更に高めたフロアモップの新商品「ＬａＬａ」を「ダストクリーナー」とセットで提案することにより、フロアモップの売上は全体でも前年同期を上回りました。また、役務提供サービスは、安心してご利用いただけるよう標準料金を明確にしたこと、年間を通じて最も需要が高まる年末に向けてサービススタッフ増員に注力したこと等で順調に推移しました。中でもエアコンクリーニングサービスは、電力供給不足に伴う節電意識の高まりを背景に大きく受注件数を伸ばしました。これらの結果ホームサービス全体の売上高は前年同期を上回りました。

事業所向けのサービスを手掛けるビジネスサービスは、お客様の衛生管理に関する要望を総合的にサポートする提案型営業を推進し、空間衛生サポートの中心商品である空間清浄機「デオ」の売上が順調に増加しました。また、全国や特定地域で多店舗展開する企業に対する営業にも注力し、一定の成果をあげることができました。しかしながら、お客様の経費削減意識の更なる高まりを受け、主力のマット商品群の売上は減少し、ビジネスサービス全体の売上高は前年同期を下回りました。

クリーングループのその他の事業につきましては、レントオール事業は、介護用品のレンタルを行うヘルスレントが順調に増加したことで前年同期の売上高を上回った他、ドリンクサービス事業（天然水）は好調でしたが、ユニフォームサービス事業は前年同期の売上高を下回りました。

以上の結果、クリーングループ全体の売上高は868億89百万円（前年同期比1.9％減）、営業利益は109億50百万円（前年同期比5.6％増）となりました。

（ｂ）フードグループ

フードグループの中心であるミスタードーナツ事業は、油で揚げずオーブンでじっくり焼いたドーナツ「焼きド」を５月に全国発売する等、お客様層の拡大に注力しました。第２四半期以降は、米粉を使ったドーナツやクリスマスドーナツ等毎月新商品を発売し、また、モスド商品（株式会社モスフードサービスとのコラボレーションショップ「ＭＯＳＤＯ」１号店で販売しているオリジナルメニュー）の全国発売を行う等、ショーケースのバラエティ感を前面に打ち出した取り組みに注力すると共に、10月からは「スヌーピー」をキャラクターに使用したプロモーションも展開し、新鮮さと季節感の訴求で、従来の“ミスドファン”だけでなく、新たなお客様層へのアピールにも注力しました。更には、お客様との接点拡充を図るべく出店にも注力し、キッチンレスのテイクアウト専門店（６月１日大阪・北大阪急行電鉄桃山台駅改札前、11月１日大阪・阪急電鉄豊中駅改札前）、「ＭＯＳＤＯ」２号店（９月７日京都河原町通りショップ）をオープンしました。しかしながら、東日本大震災による消費マインドの冷え込み等からくる落込みをカバーするに至らず、全体の売上高は前年同期を下回りました。また、東日本大震災の被災地においては、移動型店舗「ミスドカー」を使ってドーナツを提供する等の活動にも取り組みました。

フードグループのその他の事業につきましては、かつアンドかつ事業、スティック・スイーツ・ファクトリー事業は、店舗数の増加に伴って売上高が増加しましたが、不採算店を閉鎖し稼働店が減少したカフェデュモンド事業、海鮮丼チェーンを運営する株式会社どんの売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、フードグループ全体の売上高は361億68百万円（前年同期比5.6％減）、営業利益は18億40百万円（前年同期比45.4％減）となりました。

（ｃ）その他

株式会社ダスキンヘルスケアで展開しております病院施設のマネジメントサービスは、新たな大口契約を獲得する一方、既存顧客の解約等もあって、売上高は前年同期並みに留まりました。

ダスキン共益株式会社（リース事業）は、ミスタードーナツ店舗のＰＯＳ機器保守メンテナンスの契約内容を変更したこと等により前年同期の売上高を下回りました。

海外のダストコントロール事業及びミスタードーナツ事業につきましては、既存展開地域は順調に推移する中、更に展開地域の拡大を図る取組みにも注力しております。ミスタードーナツ事業におきましては、８月22日に海外６ヵ国目となるマレーシアに１号店「ジャスコ・バンダウタマ店」をオープンしました。

以上の結果、その他の売上高は75億77百万円（前年同期比4.6％減）、営業利益は２億86百万円（前年同期比182.7％増）となりました。

なお、上記の金額には消費税等は含まれておりません。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第３四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,911億74百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して77億１百万円減少しております。その要因は、現預金が45億97百万円、繰延税金資産が25億17百万円減少したこと等であります。

負債残高は439億35百万円となり、前期末と比較して63億75百万円減少しております。その要因は、未払法人税等が20億87百万円、賞与引当金が17億78百万円、未払金が14億39百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,472億38百万円となり、前期末と比較して13億26百万円減少しております。その要因は、四半期純利益30億69百万円と剰余金の配当26億12百万円との差引により利益剰余金が４億57百万円増加したことに対し、自己株式の取得により16億14百万円減少したこと等によるものであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成24年３月期通期の業績予想は、平成24年１月12日付「業績予想の修正に関するお知らせ」にてお知らせしたとおりであります。

①平成24年３月期通期　連結業績予想数値の修正（平成23年４月１日～平成24年３月31日）

（単位：百万円）

	前期（平成23年３月期）実績		当期（平成24年３月期）予想		増減	
		率(%)		率(%)		増減率(%)
売上高	177,320	100	172,200	100	△5,120	△2.9
営業利益	10,937	6.2	8,900	5.2	△2,037	△18.6
経常利益	12,613	7.1	10,800	6.3	△1,813	△14.4
当期純利益	5,248	3.0	4,200	2.4	△1,048	△20.0

②平成24年３月期通期　個別業績予想数値の修正（平成23年４月１日～平成24年３月31日）

（単位：百万円）

	前期（平成23年３月期）実績		当期（平成24年３月期）予想		増減	
		率(%)		率(%)		増減率(%)
売上高	155,150	100	150,500	100	△4,650	△3.0
営業利益	8,256	5.3	6,800	4.5	△1,456	△17.6
経常利益	10,826	7.0	9,800	6.5	△1,026	△9.5
当期純利益	4,615	3.0	3,800	2.5	△815	△17.7

２．サマリー情報（その他）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

連結子会社の税金費用については、当第３四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成23年３月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成23年12月31日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,733	14,135
受取手形及び売掛金	12,353	12,840
リース投資資産	1,864	1,901
有価証券	13,017	13,471
商品及び製品	6,297	6,243
仕掛品	155	171
原材料及び貯蔵品	1,956	1,642
繰延税金資産	2,982	1,658
その他	3,065	3,353
貸倒引当金	△63	△46
流動資産合計	60,364	55,373
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,099	41,144
減価償却累計額	△22,376	△23,084
建物及び構築物（純額）	18,722	18,060
機械装置及び運搬具	21,680	21,651
減価償却累計額	△15,130	△15,440
機械装置及び運搬具（純額）	6,550	6,211
土地	23,818	23,818
建設仮勘定	142	286
その他	12,207	11,761
減価償却累計額	△8,051	△8,206
その他（純額）	4,155	3,554
有形固定資産合計	53,389	51,931
無形固定資産		
のれん	294	236
その他	6,485	8,215
無形固定資産合計	6,779	8,452
投資その他の資産		
投資有価証券	59,955	58,652
長期貸付金	115	80
繰延税金資産	8,417	7,223
差入保証金	8,735	8,167
その他	1,334	1,501
貸倒引当金	△214	△208
投資その他の資産合計	78,343	75,416
固定資産合計	138,512	135,801
資産合計	198,876	191,174

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年３月31日)	当第３四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	7,322	7,270
1年内返済予定の長期借入金	116	94
未払法人税等	2,651	564
賞与引当金	3,542	1,764
ポイント引当金	506	437
災害損失引当金	671	－
資産除去債務	254	248
未払金	6,962	5,522
レンタル品預り保証金	10,792	11,157
その他	4,615	3,518
流動負債合計	37,436	30,578
固定負債		
長期借入金	245	175
退職給付引当金	11,112	11,828
債務保証損失引当金	117	72
資産除去債務	398	365
長期預り保証金	833	845
長期未払金	140	62
負ののれん	17	－
その他	8	7
固定負債合計	12,874	13,357
負債合計	50,311	43,935
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	13,076	13,076
利益剰余金	129,619	130,077
自己株式	△3,301	△4,915
株主資本合計	150,747	149,591
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△2,528	△2,581
繰延ヘッジ損益	△1	△6
為替換算調整勘定	△477	△560
その他の包括利益累計額合計	△3,007	△3,148
少数株主持分	825	796
純資産合計	148,565	147,238
負債純資産合計	198,876	191,174

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第３四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成22年４月１日 至　平成22年12月31日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日）
売上高	134,821	130,634
売上原価	74,870	73,530
売上総利益	59,951	57,104
販売費及び一般管理費	51,411	49,274
営業利益	8,539	7,830
営業外収益		
受取利息	636	675
受取配当金	215	222
設備賃貸料	90	97
受取手数料	217	211
負ののれん償却額	3	17
持分法による投資利益	－	17
営業権譲渡益	27	72
雑収入	409	458
営業外収益合計	1,599	1,772
営業外費用		
支払利息	54	4
持分法による投資損失	1	－
為替差損	33	81
賃貸借契約解約損	49	86
雑損失	142	155
営業外費用合計	280	328
経常利益	9,859	9,274
特別利益		
固定資産売却益	6	0
投資有価証券売却益	47	130
負ののれん発生益	7	0
貸倒引当金戻入額	19	24
債務保証損失引当金戻入額	35	－
その他	26	9
特別利益合計	142	164
特別損失		
固定資産売却損	33	32
固定資産廃棄損	191	127
減損損失	88	71
投資有価証券売却損	15	－
投資有価証券評価損	915	1,079
災害による損失	－	284
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	491	－
その他	142	25
特別損失合計	1,878	1,621
税金等調整前四半期純利益	8,123	7,817
法人税等	3,421	4,698
少数株主損益調整前四半期純利益	4,702	3,119
少数株主利益	37	49
四半期純利益	4,664	3,069

(四半期連結包括利益計算書)
(第３四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第３四半期連結累計期間 (自　平成22年４月１日 至　平成22年12月31日)	当第３四半期連結累計期間 (自　平成23年４月１日 至　平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,702	3,119
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△396	△53
繰延ヘッジ損益	－	△5
為替換算調整勘定	△57	△56
持分法適用会社に対する持分相当額	△48	△48
その他の包括利益合計	△503	△164
四半期包括利益	4,199	2,955
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	4,184	2,928
少数株主に係る四半期包括利益	14	26

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）セグメント情報等

Ⅰ 前第３四半期連結累計期間（自 平成22年４月１日 至 平成22年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	クリーングループ	フードグループ	その他（注１）	計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
売上高						
外部顧客への売上高	88,552	38,328	7,941	134,821	―	134,821
セグメント間の内部売上高又は振替高	643	58	1,872	2,574	△2,574	―
計	89,196	38,386	9,813	137,396	△2,574	134,821
セグメント利益	10,369	3,367	101	13,838	△5,298	8,539

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額△5,298百万円には、セグメント間取引消去28百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△5,326百万円が含まれております。

３．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

当第３四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。なお、のれんの当第３四半期連結累計期間の償却額及び当第３四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	クリーングループ	フードグループ	その他	全社・消去	合計
当第３四半期連結累計期間償却額	106	2	1	―	109
当第３四半期連結会計期間末残高（注）	307	11	12	―	331

（注）当第３四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成20年７月に取得した株式会社アミ・コーポレーション（現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合）ののれん残高156百万円（クリーングループ）と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高98百万円（クリーングループ）等であります。

（重要な負ののれん発生益）

「クリーングループ」セグメントにおいて、平成22年10月１日にアザレプロダクツ株式会社の全株式及び共和化粧品工業株式会社のアザレプロダクツ株式会社が保有する株式と自己株式を除く全株式を取得したことにより、負ののれんが発生しております。なお、当該事象による負ののれん発生益の計上額は、当第３四半期連結会計期間においては７百万円であります。

Ⅱ　当第３四半期連結累計期間（自　平成23年４月１日　至　平成23年12月31日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	クリーングループ	フードグループ	その他（注１）	計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
売上高						
外部顧客への売上高	86,889	36,168	7,577	130,634	―	130,634
セグメント間の内部売上高又は振替高	651	4	1,800	2,455	△2,455	―
計	87,541	36,172	9,377	133,090	△2,455	130,634
セグメント利益	10,950	1,840	286	13,076	△5,246	7,830

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額△5,246百万円には、セグメント間取引消去△20百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△5,226百万円が含まれております。

３．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

当第３四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。なお、のれんの当第３四半期連結累計期間の償却額及び当第３四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	クリーングループ	フードグループ	その他	全社・消去	合計
当第３四半期連結累計期間償却額	96	2	0	―	99
当第３四半期連結会計期間末残高（注）	236	0	―	―	236

（注）当第３四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成20年７月に取得した株式会社アミ・コーポレーション（現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合）ののれん残高93百万円（クリーングループ）と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高103百万円（クリーングループ）等であります。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

（５）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。